

2026年度 健康メディカル学部 健康栄養学科
編入学入学者選抜問題 II期 専門科目 模範解答

大問	解答番号	模範解答	解答番号	模範解答
I	1	IgM	16	○
	2	Naチャンネル	17	オペラント強化
	3	ケトース	18	保健所
	4	細胞質	19	2.54
	5	マクロファージ	20	0～1
	6	○	21	ビタミンK
	7	Bリンパ球	22	重量の多い順
	8	○	23	目標量
	9	肝臓	24	○
	10	アミラーゼ	25	80 kcal
	11	甲状腺	26	経過評価
	12	○	27	栄養士法
	13	第X	28	薄力粉
	14	○	29	塩化ナトリウム
	15	分解される	30	70%
II	・血漿中に最も多く含まれるタンパク質である。 ・肝臓で合成され、栄養状態や肝機能の指標ともなる。 ・血液の浸透圧を保つ働きがあり、むくみ（浮腫）を防ぐ役割がある。 ・ホルモンや薬物などを結合して血液中で運ぶ働き（運搬作用）がある。			
III	〔食事記録法〕 一定期間に飲食したものを対象者が記録する方法である。食べる前に秤で量る秤量法と目安量を記入する目安量法がある。対象者は記録できる能力が必要である。対象者の記録を基に、専門家が食品成分表を用いて栄養素摂取量を計算する。長所は実際に食べた内容そのものの情報が得られる点である。短所は対象者の負担が大きいこと。長期間の調査は困難。調理をしていない場合、中食や外食などは正確な量が把握しにくい。			
	〔24時間思い出し法〕 昨日の食事、または調査時点からさかのぼって24時間分の食物摂取を調査員が対象者に質問して聞き取る方法。フードモデルや写真を使って、摂取した目安量を質問し、これを基に専門家が栄養摂取量を計算する。長所は、対象者の負担が小さい。短所は、対象者の記憶に依存するので、高齢者や小さな子どもには向かない。長期間の調査は困難なので習慣的な摂取量は把握できない。			
	〔陰膳法〕 対象者が摂取した食事と同じものを用意し、化学分析を行い栄養摂取量を計算する。長所は対象者の記憶に依存しない。正確な栄養素、エネルギーが算出される。短所は、費用がかかることと、分析する装置が必要である。			
	〔食物摂取頻度調査法〕 限定された期間に目的とする食品をどのくらいの頻度で摂取したかを尋ね、その摂取量を推定する方法。1回に摂取するおおよその量を尋ねる質問票からなり、定量式、半定量式、固定量式に分けられる。長所は、対象者の負担が少なく、入力に要する時間、労力が少ないことがあげられる。疫学調査には有用。短所は、栄養摂取量の精度は劣り、信頼度は低い。リストアップした食品についてしか情報は得られない。			